

## 2 0 2 3 年 度 特 定 演 習

教 員 名	國 方 明
演 習 テ ー マ	<p>金融にかかわる方法論の修得</p> <p>本演習では、履修者が金融にかかわる経済活動を分析して、修士論文または研究調査(以下「修士論文等」という。)を執筆できるように、2つの方法論の一方または両方を教える。第1の方法論は経済理論、第2の方法論は実証分析の手法である。</p> <p>具体的な演習内容を、履修者の研究テーマに基づいて決める予定である。</p>
演 習 内 容 ・ 方 法 等	<p>まず、研究テーマを履修者に説明してもらおう。その研究テーマを、次の2つの観点から國方が評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 修士論文等にふさわしい、学術的貢献または社会的貢献(あるいはこれら両方)を達成できそうなテーマか否か。</li> <li>● スケジュール通りに修士論文等を執筆できる確度の高いテーマか否か。</li> </ul> <p>もし、研究テーマが上の2点両方を満たしたら、次に(ア)と(イ)を実施する。</p> <p>(ア) 修士論文等のテーマに関連する先行研究を要約するとともに、先行研究の限界を把握する課題に取り組んでもらう。先行研究の特徴とその限界を把握すれば、研究を遂行する際の問題意識を形成しやすくなりまた着眼点を見つけやすくなるだろう。なお、経済理論を使った修士論文等と実証分析の手法を使った修士論文等のどちらでも、(ア)を実施する。</p> <p>(イ) 実証分析の手法を使った修士論文等について、データの入手法および加工法を指導する。</p> <p>一方、もし、研究テーマが上の2点のいずれかを満たさなければ、履修者と協議してテーマを再設定する。再設定したテーマを、上記2点の観点から再度評価する。</p>